

大成ロテック



中期経営計画の最終年度となる2018年3月期の第2四半期決算では受注高、売上が前年同期比を上回ったが、営業利益、経常利益は減少した。「競争が厳しくなっているほか、ストレートアスファルトを中心に原材料価格が値上がりしており利益率は厳しい」ため、通期業績も

西田 義則 社長

「中計最終年度の目標数値の達成は非常に厳しい状態」と認識する。

18年以降の事業環境は「20年の東京五輪まで需要が多い状態となるが利益面では厳しい年が続く」と見ており、「喫緊では東京五輪。首都圏集中への対応をしていく」と語る。

革を進めるとともに生産性向上にも取り組み、会社を発展させていく

長時間労働の是正と週休2日の実現に向けて策定した「働き方改革実行計画」を4月から本社で施行する。「給与や労働環境など希望がなければ人は来てくれない。道路業界を学

レキャスト(Pca)の活用などを積極的に進めていく」考えだ。また、マイスター制度の拡充により「職長へ光を当てていきたい」と協力会社との連携強化にも力を注ぐ。

今後の新設道路から維持管理へのシフトを見据え、社内には維持管理

ともに「周辺が住宅地の個所が多いため、環境配慮型にしていきたい」と先を見据える。

事業環境の変化に対応できる収益力を構築するため「空港のコンセッション事業などにも参加していきたい」。また、土木、建築事業でも「土地造成から建物建築、外構舗装まで一貫したソリューションをさらに広げていく」と強調する。

中国に2社を構える海外事業は「まだ足がかりをつくったところでこれから明確化していく。基盤があるので伸ばしていきたい」と前を向く。今後は東南アジアへの拠点設立なども検討しながら「外国人の採用も積極的に進める」と展望する。

名実ともにトップ目指す

長期目標に掲げる「名実ともに業界トップ」の実現へ19年3月期からは新たな3力年の中計も始まる。「信頼回復を1番に、経営強化や新規事業も含めたさらなる収益力向上を目指す。業界の先頭に立って働き方改

めて処遇を改善していく」と意気込む。

その実現へ必須となる生産性向上への技術開発は「ICT舗装への対応を第一に、省力化技術やIoT(モノのインターネット)技術、プ

へ対応する専門チームも発足した。「必要な技術と進め方を具体化している。切削オーバーレイ改良への投資などに注力する」

機械だけではなく合材工場への積極的な投資も進め、省力化を図ると